

大俣小学校
「学力向上実行プラン」

○主体的に問題を解決していくことができる児童の育成
○児童が主体的に学習できる授業の実践

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、
学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算の練習には真面目に取り組む児童が多い。 ●語彙力が不足していたり、言葉の意味を理解せず使ったりしている。	・言葉を豊かにし、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、それらを活用することができる。	・音読、視写・聴写、日記、作文の指導を継続する。 ・言葉辞典の内容を充実させる。 ・朝の活動で読書の時間を充実させるとともに、多読賞の設定を見直す。	・朝の読書は定着してきている。しかし、読書のジャンルが限られているので、様々なジャンルの本に触れる機会を設定する。また「Yomokka!」を活用し、読書意欲の向上を図る。	・日記や作文指導を継続することで、書く力が定着してきた。 ・辞書に付箋が増えていくことに喜びを感じ、分からない言葉があるとすぐに辞書で調べるようになった。しかし、言葉辞典の内容を充実させるというよりは、意味が分かった言葉を羅列するだけになった。 ・読書目標達成賞に向けて、意欲的に読書に取り組む児童が増えてきた。	言葉辞典の名前を児童が親しみのあるものにするなど、言葉辞典がもっと児童に馴染みやすいものになるよう検討する。また、獲得した知識を活用する場を設定する。「読むこと」の力をつけることができるよう、全校で統一して取り組む活動を検討する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり話したりすることに意欲的な児童が増えてきた。 ●自信のなさから自分の意見を全体の中で発表することができない児童もいる。 ●他の児童の意見と自分の意見を比較・関連付けることが難しい。	・相手が聞き取りやすい声の大きさにしたり、発表する向きを変えたりすることができる。 ・自分の意見と他の児童の意見を比べながら、より良い意見を考えることができる。	・集会活動等を利用し、児童会活動や学級活動で取り組んだことを発表する場を設ける。 ・教室で安心して児童が発言できるような環境作りをする。 ・児童が思考ツールを使えるようになるよう、教師が児童から出た意見をまとめるときに板書で思考ツールを使う。	・全ての教科で、ペアやグループでの活動を取り入れて、自分の考えや意見を発言する機会を増やす。	・ショート集会の時間を十分生かすことができなかったが、朝会の時間を利用して各委員会からお知らせをすることはできた。 ・最後まで話を聞くことの指導を徹底した。話を最後まで聞いてくれる安心感が、失敗を恐れず発言できることにつながった。 ・思考ツールの使い方について若手教員による研修を行い、知識の獲得に努め、授業でも活用でき始めた。	クラス間での発表の機会を設け、児童の思考力・表現力を高める活動を増やす。児童が積極的に思考ツールを使えるよう、思考ツールのヒントカードを作るなどし、協働的な学びとなるよう効果的に活用できるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教師に指示されたことは、一生懸命取り組むことができる。 ●自ら予想を立てることができなかったり、発想が乏しかったりする。	・「なぜ?」「どうして?」と自分から積極的に学びに向かうことができる。	・児童の興味・関心を途切れさせることがないように、授業の導入を工夫する。 ・タブレットやデジタル教科書を効果的に活用する。	・児童のモチベーションを維持できるように、ポジティブなフィードバックを行う。	・導入では興味・関心をもたせるために、具体物を準備したり、パフォーマンス課題の例を紹介したりした。しかし、課題を自分事として捉えられないこともあった。 ・スタンプが貯まるなどのポジティブなフィードバックのあるドリル学習やキーボード検定に自分のペースで取り組むことができた。	教科主任の授業を参観し、それぞれの教員の強みから児童が興味・関心をもって取り組む授業について学ぶ機会をより多く取り入れる。ローマ字入力を強化する取り組みを実施する。

令和6年度 学力向上ロードマップ

